

川へ行こう！ 川を楽しもう！



かわたび
ほっかいどう

Tokoro River

かわたび北海道 (常呂川の150年のふりかえり)



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary



かわたび北海道の取り組み

四季折々の川の自然環境や景観、水辺の活動、サイクリング環境等の川に関する情報を効果的に発信するなどし、地域住民や観光客の水辺利用や周遊等をサポートするとともに、地域の取り組みのネットワーク化を図り、地域の賑わいづくり・観光振興に貢献する「かわたび北海道」プロジェクトを推進します。

常呂川の歴史を振り返り、見所を紹介します。



桜づつみ



北見ハーフマラソン



常呂川花火大会

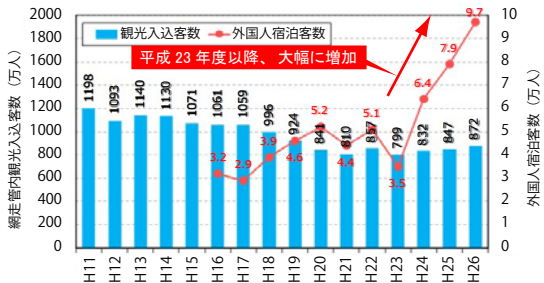


ファットバイクレース



北見ツデーマーチ

網走管内の観光入込客数は近年回復傾向で、外国人宿泊客数は大幅に増加しています。



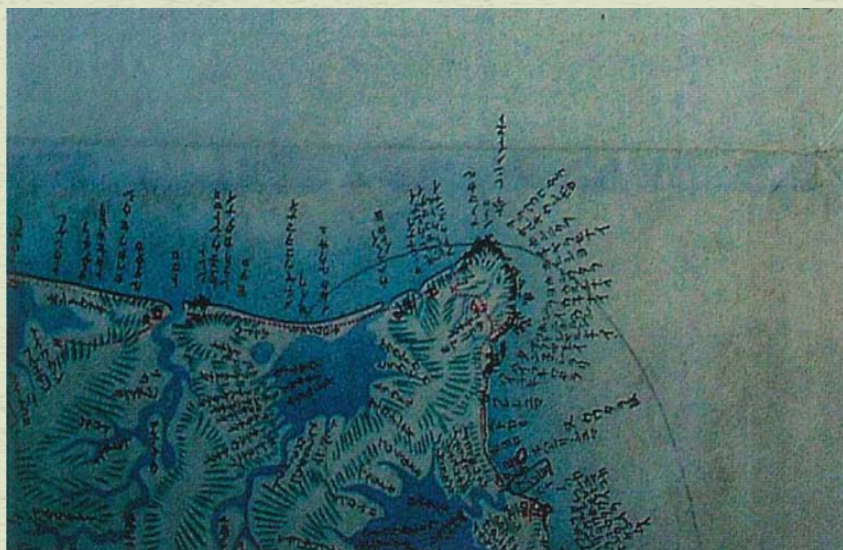
出典：「オホーツク管内観光入込客数及び外国人宿泊客数について」(北海道オホーツク総合振興局観光室)

開拓の初期【江戸時代】

- 幕末の探検家である松浦武四郎は、弘化 2（1845）年より安政 5（1858）年にかけて箱館奉行所（江戸幕府）から蝦夷山川地理取調を命じられ、6 度に渡って蝦夷地内陸探検に訪れました。
- 明治 2（1869）年には、本道はかつて「蝦夷地」と呼ばれていましたが、武四郎の提案もあり太政官布告によって「北海道」と命名されました。
- この年に北見国が誕生したのですが、北見国の区域は、かつての宗谷・斜里場所の範囲で、晴天の日には樺太が見えることから、松浦武四郎が命名したものでした。
- 平成 30 年（2018 年）は「北海道」と命名されて 150 年になります。



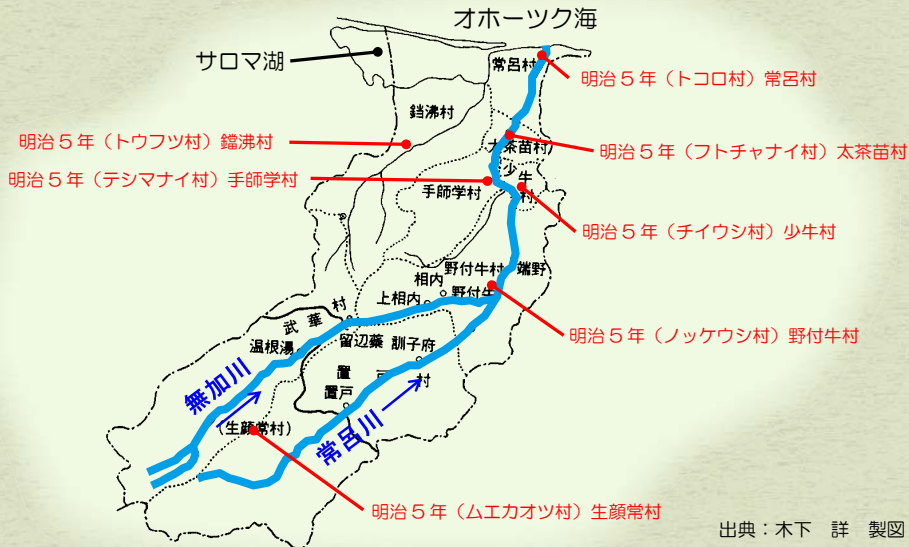
幕末の探検家
松浦 武四郎



松浦武四郎が作成したトコロ・アバシリ地方の地図
（北海道立文書館蔵）

常呂川流域への入植【明治初期～明治後期】

- 明治 5 年に網走郡出張開拓使（後の網走支庁）が設けられ、近代化の第一歩を踏み出しました。
- 明治 5 年 3 月に常呂群 7 カ所の村名が決定しました。当時村名は、アイヌの呼び名を片仮名で表していましたが、明治 8 年 5 月から漢字に改められました。
- 明治 16 年 4 月には、常呂村に常呂郡を一円とする常呂村外 6 カ所戸長役場が置かれ、戸長に鹿児島県人の杉田三次郎が任命されて、行政組織が始まりました。



農業移民のはじまり

明治 19 年に、北海道庁は入植事業を円滑に進めるために、新たに「北海道土地払下規則」を制定し、それと併行して道内植民地の整理調査に乗り出しました。

明治 20 年石狩地方から調査を開始し、明治 22 年には道内主要原野の調査を終えました。そして、明治 24 年にこの調査の報告書が「北海道植民地選定報告文」としてまとめられ、入植移民業務が全道的に進められました。

常呂郡内では下常呂・野付牛・武華・訓子府の各原野が区画測定されたのにもない、明治 28 年より本格的に移住入植がはじまりました。



植民地区画図（明治 22 年測量）



原生林を測量する様子

- 明治 25 年ころから、道東の北部に当たる北見国の常呂原野と湧別川流域に兵村を設置し、屯田兵を積極的に入植させて北部地区を開拓すると同時に、オホーツク海沿岸の警備態勢の強化を図ろうとしました。
- 明治 31 年には、野付牛原野、湧別原野に入植して、北見 597 戸、湧別 399 戸の編成を完了し、野付牛、湧別両村の開基となりました。



屯田兵の行軍風景



明治末期の兵村風景

中央道路の開削

北海道庁の初代長官の岩村通俊は、本道の開発は殖民地を選定して、土地制度を確立しても、開拓者を入植されるためには道路の整備が必要であるとしました。このため、日本海岸からオホーツク海岸に抜ける内陸道路の開削は、開拓と国防上幕末からの課題でもあったので、交通網の整備を急ぐことになりました。

網走から忠別太(旭川)を経て、札幌に通じるいわゆる中央道路は、明治 25 年に旭川・根室間を中央道路を含め仮定県道として開削され、網走・野付牛・佐呂間・遠軽等を結ぶ内陸幹線となり、これにつながる支線が次々に設けられました。とりわけ、明治 34 年の開拓 10 年計画によって、管内道路の開削は急速に進みました。



中央道路略図

(山谷一郎著「網走刑務所」より)



主な洪水と治水事業の経緯

主な洪水と治水計画

大正 10 年 北海道第 1 期拓殖計画の一環として治水工事着手

- ・計画高水流量
(河口) : 5 万立方尺 (約 1,400m³/s)
- ・築堤工事

大正 11 年 8 月洪水 (台風)

- ・流量 : 推定 1,610m³/s
- ・流域平均雨量 182mm/48h
- ・死者 117 名 (全道)
- 被害家屋 1,093 戸
- 田、畑浸水 2,160ha

昭和 2 年 北海道第 2 期拓殖計画 (計画の見直し)

- ・計画高水流量 :
(河口) 7 万 5 千立方尺 (約 2,100m³/s)
(北見) 4 万立方尺 (約 1,100m³/s)
- ・置戸境野から河口までの築堤・掘削

昭和 32 年 計画流量の見直し

- ・計画高水流量 : 1,500m³/s

昭和 42 年 一級河川に指定

昭和 43 年 工事実施基本計画策定

- ・基本高水流量 : 1,900m³/s
- ・計画高水流量 : 1,600m³/s

昭和 50 年 9 月洪水 (低気圧・前線)

- ・北見地点流量 : 508m³/s
- ・流域平均雨量 : 77mm
- ・被害家屋 1,060 戸、氾濫面積 1,111ha

昭和 50 年 鹿ノ子ダム建設着手

昭和 58 年 鹿ノ子ダム完成

平成 4 年 8 月洪水 (台風)

- ・北見地点流量 : 671m³/s
- ・流域平均雨量 : 78mm
- ・被害家屋 26 戸、氾濫面積 690ha

平成 10 年 9 月洪水 (台風)

- ・北見地点流量 : 898m³/s
- ・流域平均雨量 : 101mm
- ・被害家屋 8 戸

平成 13 年 9 月洪水 (台風)

- ・北見地点流量 : 932m³/s
- ・流域平均雨量 : 175mm
- ・被害家屋 2 戸、氾濫面積 993ha

※流量、流域平均雨量は北見地点
※北見市の氾濫面積、被害家屋は北見市全域を
含んだ値であり、一部流域外も含む



大正 8 年 常呂川氾濫状況 (常呂村)



常呂川治水工事起工式 (大正 10 年 8 月 1 日) 常呂町史より



昭和初期の治水工事



常呂川下流部の治水対策

【豊川新水路掘削工事】

- 明治 42 年洪水、大正 8 年、9 年と続く大洪水を契機に、大正 10 年 8 月ようやく、待望の治水工事が着工されました。
- 下常呂平野 3,400h a に及び広大な地域のはん濫防止を目的に、未墾地の開発を促進するために、蛇行の激しい豊川地区の捷水路工事が、大正 11 年 1 月に着手されました。
- 旧河道延長 5,500m を新河道延長 3,900m に切り替え、洪水の疎通を図るとともに、掘削土量は築堤造成に利用され大正 13 年 3 月に通水されました。



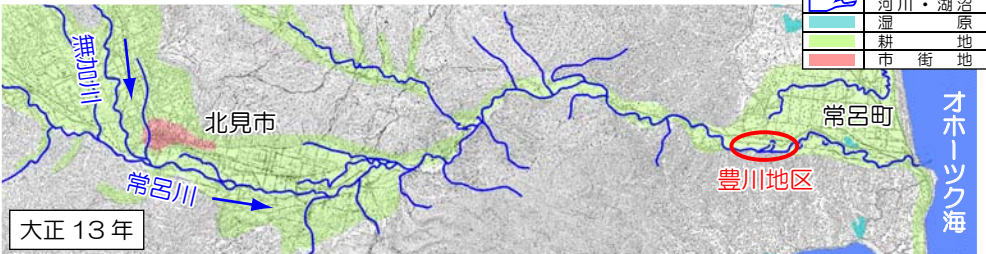
明治 30 (1897) 年ころの開拓創成期の河道



平成期の河道

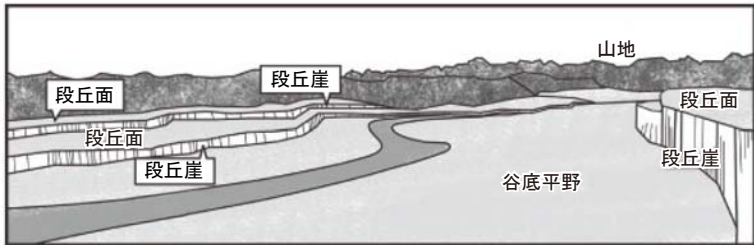
- 常呂川流域の低平地では、度重なる洪水や氾濫を契機に、大正 10 年以降さまざまな治水対策が施され、土地利用は耕地や市街地が拡大しました。

凡例	
	河川・湖沼
	渚
	原
	耕地
	市街地



常呂川の河岸段丘

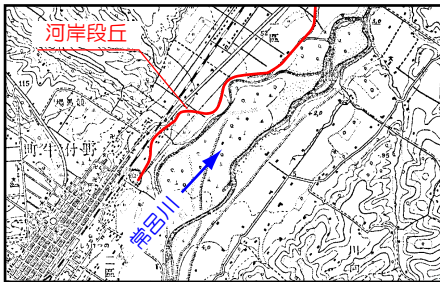
- 川は土地の隆起で流れる場所が高くなったり、気候の変動で海面が低下したり降水量が大きくなったすると、侵食力が増して谷底平野を削り、より下流に土砂を運んでいきます。そして、川より高く平らな形で残った平坦面（段丘面）と削られてできた崖（段丘崖）からなる土地ができあがり、これを河岸段丘といいます。
- 北見市を中心とする北見盆地が代表的なもので、常呂川本川や支川の無加川、訓子府川などにおいて、数段の河岸（かかん）段丘（だんきゅう）群を形成しており、網走地方における最大の内陸凹地となっています。



出典：国土地理院

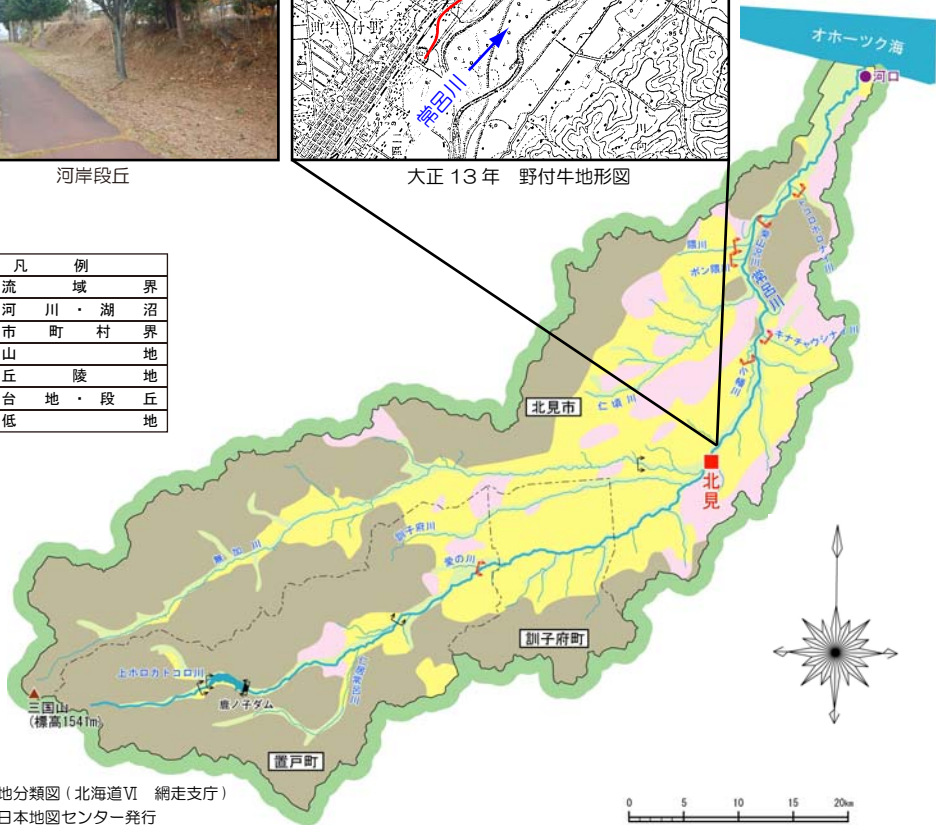


河岸段丘



大正 13 年 野付牛地形図

凡 例	
	流域界
	河川・湖沼
	市町村界
	山地
	丘陵地
	台地・段丘
	低地



出典：土地分類図（北海道VI 網走支庁）
財団法人日本地図センター発行

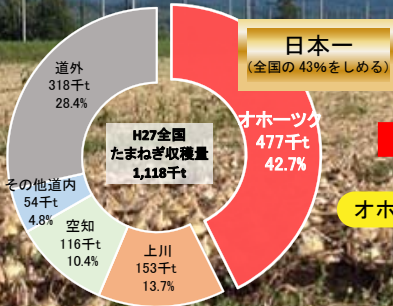


常呂川治水対策によるストック効果

- 流域は農業、水産業が盛んで、中下流部は農地として明治初期からひらけ、河口沿岸ではホタテの養殖などの漁業が行われており、タマネギや甜菜（てんさい）、ホタテの全国有数の産地となっています。
- オホーツク管内のタマネギの収穫量は、全国一位となっています。

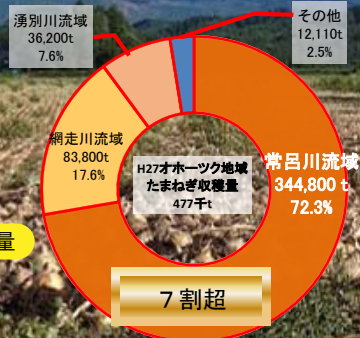
たまねぎ収穫量

< 全国 >



常呂川流域は全体の7割超

< 流域別 >



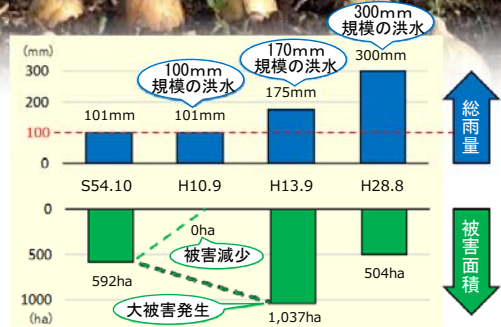
オホーツク収穫量

資料：H27作物統計

オホーツク流域

- 中小洪水で被害が大幅に軽減
- ただしH13年規模の洪水では、さらなる整備が必要

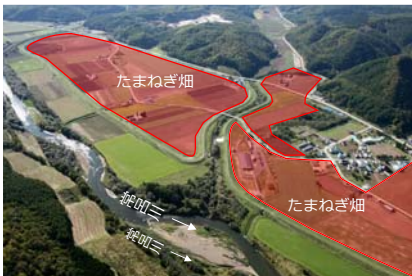
- 【H10 洪水】→ 100mm 規模で被害が減少
- 【H13 洪水】→ 170mm 規模で大被害が発生
- 【H28 洪水】→ 300mm 規模で堤防決壊及び大被害が発生



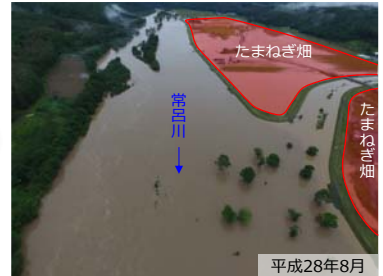
治水事業の推進が必要

常呂川流域のたまねぎ畑浸水被害状況

たまねぎ畑範囲



たまねぎ畑浸水状況



大規模洪水発生

川 常呂川の流域概要

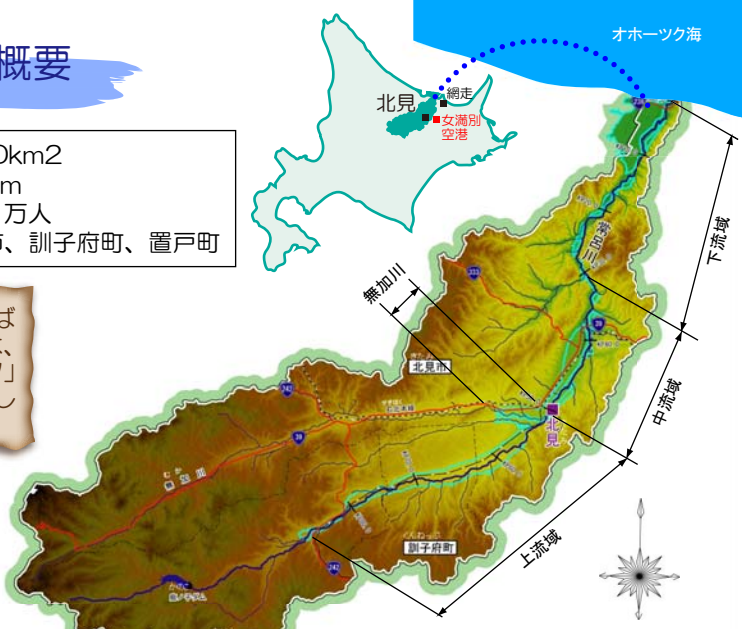
流域面積	: 1,930km ²
幹川流路延長	: 120km
流域内人口	: 約 14 万人
関係市町村	: 北見市、訓子府町、置戸町

「北海道の地名」によれば常呂(ところ)川という名は、アイヌ語の「ト・コロ・ペツ」(沼・を持つ・川)に由来しています。

交通アクセス

空港連絡バス

- 《女満別空港 ⇄ 北見》
所要時間・・・約 42 分
距離・・・・・・約 32km
 - 《女満別空港 ⇄ 網走》
所要時間・・・約 35 分
距離・・・・・・約 22km
- ※到着場所はバスターミナル



凡 例	
	流 域 界
	基 準 地 点
	鉄 道 (JR 線)
	国 道

Welcome to Okhotsk World

オホーツクエリアの形と Okhotsk の頭文字「OK」から「オホーツクは OK!!」「オホーツクで OK!!」を合言葉に、この地域の様々な魅力の情報発信のサポートになるよう怪獣キャラクターが誕生しました。

オホーツク快住(かいじゅう)は造語で『オホーツクには快さが住む』の意味をこめています。

企画・製作：オホーツク観光連盟

- オホーツク地域のサイクリングツーリズムを進めるため、北見市、網走市、大空町が中心となり「オホーツク地域サイクリングブランド化推進協議会」を平成29年4月に設立しました。
- この協議会には、北見サイクリング協会、網走サイクリング協会のほか、オブザーバーとして、網走開発建設部等が参画しています。



レンタサイクル

【貸し出し場所】

サロマ湖ワッカネイチャーセンター
北見市常呂交通ターミナル
道の駅「流水街道網走」内観光案内所

お問い合わせ先 / ワッカネイチャーセンター
お問い合わせ先 / 交通ターミナル
お問い合わせ先 / (社) 網走市観光協会

TEL:0152-54-3434
TEL:0152-54-3732
TEL:0152-44-5849



